

「新規赴任者のためのアメリカ新生活セミナー」に参加して

ニューヨーク事務所

2015 年 4 月 18 日(土)、ニューヨーク事務所に今年度新たに赴任した職員 5 名は、語学学校の ibec language institute が主催する、「新規赴任者のためのアメリカ新生活セミナー」を受講しました。5 時間程の講義を通じ、ニューヨークで仕事をし、暮らしていくために必要である基本的な知識について Michael Board 講師から学びました。今回はその中からいくつか学んだことをご紹介します。

1. 招き猫の手の動きは、「あっちへ行け」？～身振り手振り、仕草の意味～

日本では、友人などを呼ぶ際、手の甲を上にして、手を上下させるジェスチャーをします。しかし、こちらで同じことをすると「あっちに行け」という正反対の意味になるといいます。こちらでは、手のひらを上にして呼び寄せます。そのため、日本の招き猫の意味は理解され辛いのだとか。

それから、日本でもあまり良い意味ではないですが、つい悩んだり考えたりする際にしてしまいがちな腕組みは、こちらでは「あなたに賛同していない」という強いサインであったり、また、日本の女性が笑う際口元を隠す仕草も悪い印象を与えません。こちらでは、男性も女性も口を大きく開けて歯を見せて笑います。その他にも、座っている際、「手はお膝の上！」と小さい頃に親や教師に叱られた記憶がありますが、こちらでは、手は机の上に見せておく必要があるとのこと。

身振り手振りや仕草については、日本と意味が違うということは話にはよく聞くものの、実際何気なく行ってしまうものですから要注意です。

2. ホームパーティには 1 時間遅れて出席？～時間感覚の相違～

育ってきた環境が違えば、あらゆる感覚が異なるのも致し方ないことです。

その一つに、時間感覚が挙げられます。少し昔の話になりますが、サッカーカメルーン代表が大遅刻でキャンプ地の大分県中津江村(当時)に到着した一件で、多くの日本人も感じたところでしょう。仕事における会議や、普段の生活の中における待ち合わせといった場面においては、その国によって待ち合わせ時間の捉え方は異なります。

日本では、社会で一般的に求められるのは「5分前行動」です。しかしこちらアメリカでは、仕事面でいうと 10 分程度は遅刻にはあたりません。20 分程度遅れた場合は、理由を話して謝る程度です。20 分以上遅れそうな場合は、行く前に電話で理由と謝罪を伝えておきます。日本では、基本的には、理由の如何より「遅刻」という結果を重視しますが、こちらでは、間に合うよう努力することが重視されます。

さらに、プライベートでは、例えば夜のホームパーティに誘われたとして、夜の 8 時開

会だと通知されていたとすると、実際の集合は9時頃で良いとのこと。講師曰く、日本人をパーティに誘う際は、開始時刻を1時間遅らせて知らせているのだとか。そう気を配ってくれる講師のような方ばかりならいいですが、郷に入りては、とは言うものの、筆者はなかなか遅れて行く勇氣は出ないのが本音です。

3. 関西人の感覚に近い？～コミュニケーションの図り方～

人と人とのコミュニケーションを取るという点では、日本と共通するところももちろんあります。“Small Talk”と呼ばれる、人とのちょっとした会話のやりとりでは、天気や仕事の調子、最近の出来事などについて話すのが一般的で、政治や宗教、給料などの個人的な話題は避けるべきです。ただ、お金に関する話題であっても、「これ、いいでしょ！〇〇ドルで買ったのよ！！」という話、つまり、こんないいものがこれだけお得に買ったのよ！という自慢話はOKなのです。

また、こちらでは、日常会話でも会議においても、沈黙が一番居心地が悪いと感じるようです。皆、積極的に言葉を発します。日常会話では、とにかく話したい内容を思い切り話します。会議では、自分の話に対して質問がないと、この人たちは自分に興味がないのだと感じてしまいます。

元はイギリスの思想家の言葉のようですが、日本には、「沈黙は金、雄弁は銀」ということわざがあるように、必要に応じて沈黙を良しとしますが、こちらでは、たとえ少し前に話していた内容を反復する内容であったとしても、ひとまず話すことを中心に考える方が良さそうです。

しかしながら、お得に買ったという自慢話や、沈黙が苦手、というのは、関西在住が長い筆者としてはとても親近感がわくところです。

4. 美容室では誰に払う？～チップの払い方～

講師の話の中で、おそらく皆が注目して聞いていたと思われる内容の一つが、チップについてです。チップを払う習慣のない日本人にとっては、どこで、誰に、どのタイミングでいくら払うべきなのか、考えてもあまりイメージがわきません。

チップとは、受けるサービスに対する報酬です。また、労働者にとって、チップは賃金の一部であり、中には収入の大部分を占める場合もあります。もちろん、サービスを受ける側は、サービスに満足し、又は不満があった場合にはその額を調整することも可能ですが、チップとはそういうものであるという前提を理解しておきたいところです。それを踏まえた上で、次にいくつか例を挙げてみます。

レストランでは、taxの2倍の額又は請求額の20%の額が一般的です。渡された請求書に、自分で額を記入することが多いです。また、バーでは、バーテンダーに対し1杯につき1～2ドル支払います。タクシーでは、筆者も赴任初日に利用してときどきしましたが、15%、20%、25%と選択肢があり、自分で選ぶことが可能です。選択すると、支払う合

計額が機械の画面上に出てくる仕組みです。

その他にも、美容室において、日本でもあると思いますが、シャンプーしてくれる人とカットをしてくれる人が別々の人である場合、どのように支払うでしょうか？それぞれの人にチップを渡すのが一般的であるとのことで、基本は、シャンプーをしてくれる人には数ドル、全体では 15%~20%渡すのが相場だとのことです。美容室やサロンなどは、行く店の高級さや、メニュー、仕上がり具合の自分の納得感など、チップの額が変わる要素は多々あります。まだこちらで美容室には行っていないので、それを踏まえて近々チャレンジしてみようと思います。

5. ニューヨークという街で暮らす 2 年間 ~所感~

筆者も4月に着任してから新しい仕事と生活環境への適応に奮励努力してきましたが、たった1ヶ月ほどで、生活の場面だけでも大小様々な驚きに遭遇しています。

例えば、毎朝通勤時は、警察が交差点の真ん中に立って交通整備をしています。スーパーでは、かごをレジに置くだけでなく、自分でかごの中の商品を全て出さないといけません。道端では、皆知り合いかと思うくらいさりげなく small talk をかわします。電車では、日本以上に高齢者や親子連れに席を譲る光景が見られます。

これから過ごすニューヨークでの2年間、日常生活でも業務においても、まだまだたくさんの人や驚く出来事に出会ったり、新しいことを学んだり、貴重な体験をするのだろうと想像すると、改めて背筋が伸びる思いです。



(丸野所長補佐 和歌山県派遣)